

森林生態系多様性基礎調査野帳様式

林野庁

様式	現地調査 記入	備考
様式 1-1 調査プロット到達経路情報	●	
様式 1-2 調査プロット到達経路情報（地図）		地図をスキャンし（電子地図の利用も可）、入力プログラムで取り込み、印刷する
様式 1-3 調査プロット到達経路情報（写真）		写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する
様式 2-1 調査プロット情報	●	
様式 2-2 調査プロット情報（見取り図）	●	
様式 2-3 調査プロット情報（写真 1）		写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する
様式 2-4 調査プロット情報（写真 2）		写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する
様式 3-1-1 立木調査表	●複数枚	
様式 3-1-2 タケ調査表	○	異なる種のタケが 1 プロットに存在する場合、または林分が分割される場合は 2 枚以上必要
様式 3-2 立木調査総括表	●	林分が 4、5 分割される場合は 2 枚必要
様式 4 伐根調査表	●	
様式 5 倒木調査表	○	特定調査プロットのみ（項目別調査 1～3 も該当） 項目別調査 4（伐採跡地、自然災害）は全プロットを特定調査プロット扱い
様式 6 土壌侵食及び下層植生調査表	●	ただし全域が森林の植生調査区のみを対象
様式 7 資料調査表（面積最大の小班）		現地調査の事前に記入しておく
様式 8 実生調査表	○	項目別調査 4 に使用

● 現地調査時に必ず記入する様式

○ プロットの条件により記入する必要がある様式

様式 1-1

調 査 プ ロ ッ ト 到 達 経 路 情 報

格子点 ID				調査年月日				天気			
調査点種別	通常 特定	一般 項目別	1:特殊 2:河畔林 3:衰退 4:攪乱 5:その他 (1:民回廊 2:混交林化 3:高齢級)								
現地調査 実施者 元請責任者では なく、現地調査を 実施した全員	所属			氏名			主査・植生・直径・樹高				
	所属			氏名			主査・植生・直径・樹高				
	所属			氏名			主査・植生・直径・樹高				
	所属			氏名			主査・植生・直径・樹高				

1 到達目標

座標（世界測地系） 前回調査野帳から書き写し	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒
前回調査時の GPS 計測中心杭位置 ・ 計画格子点 ・ 項目別新規		

2 到達情報 写真番号は「様式 1-3」、留意事項は「様式 1-2」と一致させる

留意事項 様式 1-2 に図示	鍵の有無（有の場合は所有者名及び連絡先）、近隣挨拶の必要性（地区長等への連絡）等				
GPS 機種					
経路／ 車道名など	座標（世界測地系）（分、秒は小数点表記でもよい） / GPS 補正機能				写真 番号
	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒			
	なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正				
	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒			
	なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正				
駐車位置	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒			
	なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正				
	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒			
	なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正				
	N: 度 分 秒	E: 度 分 秒			
	なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正				
時刻	1 日目	行駐車 :	杭到着 :	調査了 :	帰駐車 :
24 時式	2 日目	行駐車 :	杭到着 :	調査了 :	帰駐車 :

- ・ GPS の補正機能は、実際に使用した機能を選ぶ（ビーコンを受信する機能があっても、計測時に受信できなかった場合は選ばない）。複数の機能を組み合わせることが望ましく、使用した全ての機能を記入する。
- ・ 1 地点の調査が 2 日にまたがる場合、2 日目の行駐車から帰駐車までの時刻を「2 日目」の欄に記入する（必ず 1 日ごとに行駐車と帰駐車を記入する）。

3 調査プロットの基本情報

中 心 杭 位 置 座 標 世 界 測 地 系	到達不可能または非森林の場合は記入しない N: 度 分 秒 E: 度 分 秒 なし ・ 海保ビーコン ・ MSAS ・ GLONASS ・ 平均化 ・ 後補正
調 査 の 継 続 状 況	継続調査 ・ 到達不可能（下欄記載、状況写真撮影） ・ 新規（森林外から森林へ変化など） 再設定=調査定点位置変更〔理由：発見困難 詳細内容〔 〕〕 再設定=調査定点位置変更なし〔理由：円周杭修正により胸高直径 18cm 以上の立木本数が変わる、 GPS で中心杭再設定、他〔 〕〕 非森林（農地、人工改変地などに変化した場合。状況写真を撮影。伐採跡地は継続調査。）
到 達 不 可 能 理 由 状況写真撮影プロ ット調査を実施で きる場合、非森林 の場合は記入しな い	a：調査定点が地形的に通常的手段で到達できないところに所在 b：法的規制による立ち入り禁止、c：現状で到達不可能だが、今後の再確認が必要 d：一時的に到達経路等が不通または危険な状況が発生、e：その他 x：所有者の了解が得られない 〔 詳細内容（※a～x の各選択肢にかかる詳細内容を記述） 〕

格子点 ID	調査年月日
詳細図（駐車位置から調査プロットまで）	
※ 1/5,000 の地図を使用 ※ 調査プロットへの到達の目標となる地物や経路を記入し、適宜、GPS の座標位置や写真番号等を添える。（次回調査時に使用しますので、できるだけ詳しく書いてください。） ※ 既設歩道の有無など	
概略図（市街地から駐車位置、調査プロットまで）	
※ 1/20,000～1/25,000 の地図を使用 ※ 調査プロットの位置と経路を色鉛筆で示す。また、必要に応じて写真番号や GPS の座標値等を記入する。 ※ 鍵の位置、近隣挨拶の必要性（地区長等への連絡）等、様式 1－1 到達情報／留意事項の該当箇所を示す。 ※ 路面状況（砂利、狭い、荒れているなど）など	

様式 1-3 調査プロット到達経路情報（写真）

格子点 I D	調査年月日	枚中	枚目

写真番号：

※1 写真の 1 枚目は、調査当日
の調査員の装備等が分かる
集合写真とする。

※2 様式 1-1、2 到達情報の
写真番号と一致させること。

※3 最後の写真は、中心杭とそ
の周囲の状況がわかる写真
を撮影し貼り付けること。

写真貼付

写真番号：

写真貼付

写真番号：

写真貼付

様式 2-1 調 査 プ ロ ッ ト 情 報

格 子 点 I D		調 査 年 月 日	
-----------	--	-----------	--

1 地形概況

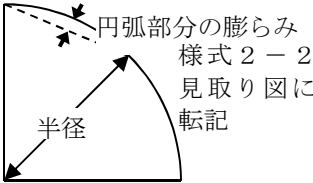
斜面方位 大地形		斜面傾斜 大地形	度
局所地形	平坦地 ・ 平坦尾根 ・ やせ尾根 ・ 山腹凸斜面 ・ 山腹凹斜面 山腹平衡斜面 ・ 山脚侵蝕面 ・ 山脚堆積面 ・ 崖錐		

※ 斜面方位は斜面下方の方位を 8 方位で記載、大地形に基づく斜面方位とする。
※ 斜面傾斜は斜面方位の方向を計測。前回を書き写さず、毎回計測する。

2 プロットの半径

最大傾斜	継続 (プロット設定時の野 帳から書き写し)	度	最大傾斜 (°)	半径【斜距離】 (m)			円弧部分 の膨らみ (m)
	新規設定・再設定 の場合	度		小円	中円	大円	
→			0 ~ 2	5.64	11.28	17.84	1.36
			3 ~ 7	5.65	11.31	17.88	1.36
			8 ~ 12	5.69	11.37	17.98	1.37
			13 ~ 17	5.74	11.48	18.15	1.38
			18 ~ 22	5.82	11.64	18.40	1.40
			23 ~ 27	5.93	11.85	18.74	1.43
			28 ~ 32	6.06	12.13	19.17	1.46
			33 ~ 37	6.23	12.47	19.71	1.50
			38 ~ 42	6.45	12.89	20.38	1.55
			43 ~ 47	6.71	13.42	21.22	1.62
			48 ~ 52	7.04	14.07	22.25	1.69

※ 最大傾斜に基づき右表の半径を適応する。(8 方位とも同距離) ※ 中心杭、円周杭は現杭が 5 年後まで保存不可能と判断されれば更新する。更新する際は、槌等で確実に新杭を打設すること、必ず現杭を回収廃棄すること。



3 林分占有率 【調査プロット情報(見取り図) (様式 2-2) より】

分割		優占種 土地区分	点格子数		
			小円部	中円 ドーナツ	大円 ドーナツ
森 林	林分 1				
	林分 2				
	林分 3				
	林分 4				
	林分 5				
森林以外					
合 計			20	60	120

様式 2-2 における各円の点格子を数えて、点格子数を記入する。

小円 (+) 20 点、中円ドーナツ (×) 60 点、大円ドーナツ (+) 120 点分布。

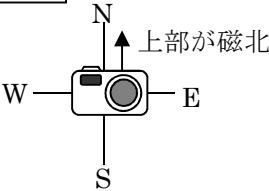
※ 林分分割した場合でも、林分 1 + ... + 林分 n (+ 森林以外) の合計が、各円 (ドーナツ) に配分された点格子数を超えることはありえない。

林分占有率の%は、点格子数を入力プログラムに入力すると、プログラム上で計算される。

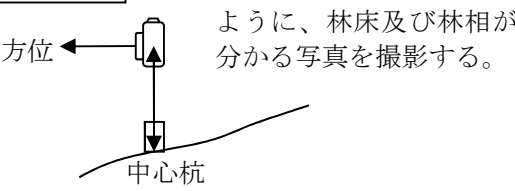
4 写真撮影確認

天 頂	磁 北	磁 東	磁 南	磁 西

天頂写真

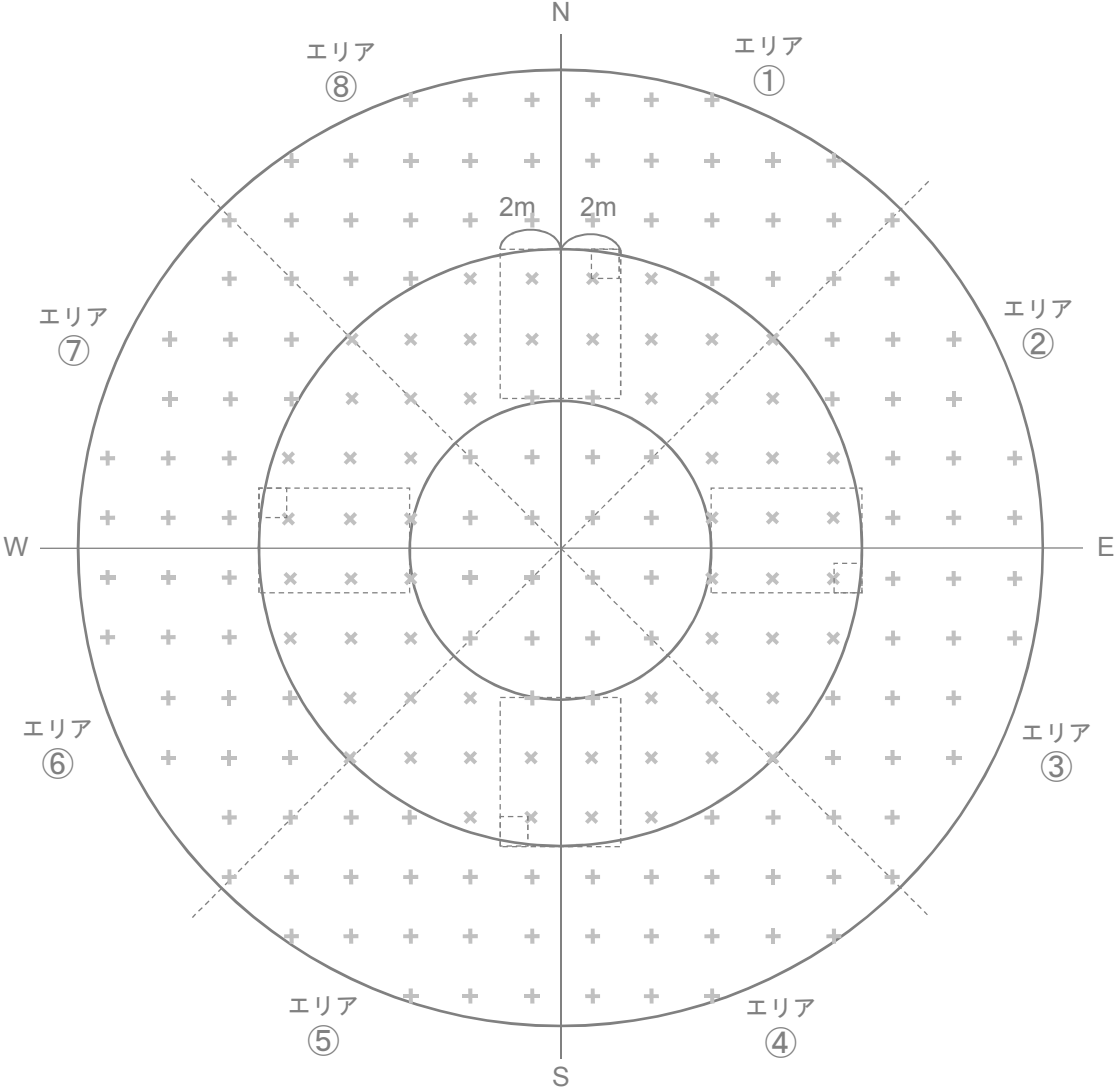


4 方位写真



様式 2-2 調査プロット情報（見取り図）

格子点 I D	調査年月日	円周部の立木の見落としが無いよう、円周部の膨らみに注意。（様式 2-1 表を参照）	円弧部の膨らみ  m



見取り図へ記載する内容

- 林分分割の必要があれば、林分位置を記入する。（基準は下表参照）
- 対象とした植生調査区を実線で囲う。原則として、対角に位置する 2 植生調査区（原則 N 区、S 区）を対象。
- 林分分割や非森林には関わらなくとも、林道、作業道、歩道、堰堤等構造物、沢、岩場・崖、地形が急に変化する地点などプロット概況の把握に必要な地物を記入する。
- 立木調査で番号を付した立木のうち、樹高を測定した標準木の立木位置を記入する。
- 実生調査を実施する場合は、実生コードラート（1m×1m）を植生調査区の中円側、中心から見て右角に設置し、実線で囲う。

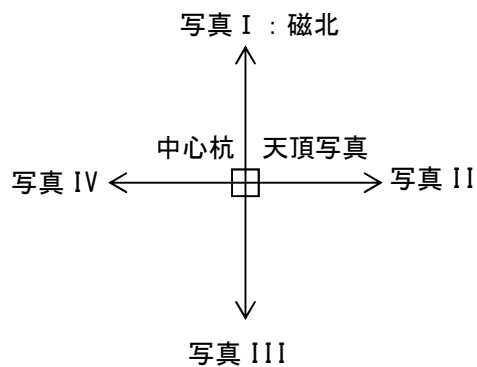
有無	分割の基準
分割あり	- 樹種構成が大きく異なる - 林齢が大きく異なる（およそ 10 年以上）
非森林区域	- 調査プロット内に森林以外の土地が含まれる場合は、区分する - 林道、法面、畑、建物敷など
分割なし	- 林相が異なっている、変化の幅があり、その幅が概ね 10m 以上ある - プロット内に上層木の消失により生じたギャップが含まれている場合（自然要因か人為的要因かは問わない、列状間伐、風倒木など）、分ける必要はない - 林道（非森林に区分）などによって分割されているが、分割ありの条件に該当しない場合 - 複数の小班をまたぐが、分割ありの条件に該当しない場合

点格子：小円（+）20 点、中円ドーナツ（x）60 点、大円ドーナツ（+）120 点分布

様式 2-3

調査プロット情報（写真 1）

格子点 I D	調査年月日



※中心杭位置から磁北を上として天頂を撮影し、下の貼付欄へ貼り付けること。

※格子点を中心として東西南北方向に各 1 枚写真を撮影し、北方向の一枚については下の貼付欄へ、東西南方向については、様式 2-4 に貼り付けること。

※方位については、全てコンパスによる測定で確認する。

※撮影方向が手前の幹などでさえぎられる場合、避けて撮影してもよい。

調査点天頂写真
(天頂方向)

写真貼付

調査点写真 I
(磁北方向に撮影)

写真貼付

様式 2-4

調 査 プ ロ ッ ト 情 報 （ 写 真 2 ）

格子点 I D	調査年月日

調査点写真 II
(磁東方向に撮影)

写真貼付

調査点写真 III
(磁南方向に撮影)

写真貼付

調査点写真 IV
(磁西方向に撮影)

写真貼付

様式 3-1-2 タ ケ 類 調 査 表

格子点 I D	調査年月日	タケの種類	林分番号	枚中 枚目
		マダケ・モウソウチク・ハチク		

- ・ マダケ、モウソウチク、ハチクを対象とする。
- ・ その他のタケ、ササは、胸高直径が測定対象に達する場合でもこの調査の対象とせず、下層植生調査において調査する。

※異なる種が 1 つのプロットに存在する場合には、種ごとに野帳を作成する。

※林分を分割した場合も、林分ごとに野帳を作成する。

1 稈本数

- ・ 対象となるタケ類の種名と稈本数を区画ごとに記録する。生稈本数と枯損稈本数は欄を分けて記入する。
- ・ 枯損していても地面に自立している稈は、本数の記録の対象とする。
- ・ タケノコ状態の稈も、各円の測定対象の直径に達していれば、本数の記録の対象とする。
- ・ 胸高直径：小円 1.0cm 以上、中円 5.0cm 以上、大円 18.0cm 以上。

エリア	本数						エリア	本数					
	小円		中円		大円			小円		中円		大円	
	生稈	枯損稈	生稈	枯損稈	生稈	枯損稈		生稈	枯損稈	生稈	枯損稈	生稈	枯損稈
①							⑤						
②							⑥						
③							⑦						
④							⑧						

2 胸高直径及び稈高

- ・ 胸高直径は、群落全体から 30 本選択して測定する。（種を分けた場合は種ごとに、林分を分割した場合は林分ごとに 30 本選ぶ。稈が 30 本以下の場合、全ての稈を測定する。）
- ・ 稈高は、直径を測定した稈のうち、群落の中で最上層に到達していると思われる健全稈を 5 本選んで測定する。（種を分けた場合は種ごとに、林分を分割した場合は林分ごとに 5 本選ぶ。稈が 5 本以下の場合、全ての稈を測定する。）
- ・ 稈高は、稈の長さではなく、稈の垂直高を測定すること。

No.	胸高直径 (cm)	稈高 (m)	エリア ①~⑧	小円 と 大円	備考	No.	胸高直径 (cm)	稈高 (m)	エリア ①~⑧	小円 と 大円	備考
1				小・中 大		16				小・中 大	
2				小・中 大		17				小・中 大	
3				小・中 大		18				小・中 大	
4				小・中 大		19				小・中 大	
5				小・中 大		20				小・中 大	
6				小・中 大		21				小・中 大	
7				小・中 大		22				小・中 大	
8				小・中 大		23				小・中 大	
9				小・中 大		24				小・中 大	
10				小・中 大		25				小・中 大	
11				小・中 大		26				小・中 大	
12				小・中 大		27				小・中 大	
13				小・中 大		28				小・中 大	
14				小・中 大		29				小・中 大	
15				小・中 大		30				小・中 大	

様式 3-2

立 木 調 査 総 括 表

格子点 I D	調査年月日

枚中	枚目
----	----

1 林分構成（現地確認）

(4)	林分1	優占樹種				
	林分発達段階	人工更新（植栽、播種） ・ 天然更新（施業あり） ・ 天然更新（施業なし）				
	初期	若齢	成熟	老齢	攪乱	
	・ 林冠強度閉鎖、下層植生乏しい ・ 樹冠に隙間、草本層・低木層発達 ・ 階層構造、ギャップ、大径枯損・倒木 ・ 強度間伐、中～大規模被害など					
	植被率	高 木 層	%	亜 高 木 層	%	
(5)	林分2	優占樹種				
	林分発達段階	人工 ・ 天然(施業あり) ・ 天然(施業なし)		初期 ・ 若齢 ・ 成熟 ・ 老齢 ・ 攪乱		
	植被率	高 木 層	%	亜 高 木 層	%	
	施業形跡 (5年以内)	なし ・ 伐根 ・ 伐倒木 ・ 末木枝条 ・ 枝打痕 ・ 下刈跡 ・ 植栽 ・ 補植 人工播種 ・ 天然更新補助作業（地かき等） ・ その他（ ）				
	(5)	林分3	優占樹種			
林分発達段階		人工 ・ 天然(施業あり) ・ 天然(施業なし)		初期 ・ 若齢 ・ 成熟 ・ 老齢 ・ 攪乱		
植被率		高 木 層	%	亜 高 木 層	%	
施業形跡 (5年以内)		なし ・ 伐根 ・ 伐倒木 ・ 末木枝条 ・ 枝打痕 ・ 下刈跡 ・ 植栽 ・ 補植 人工播種 ・ 天然更新補助作業（地かき等） ・ その他（ ）				

2 プロットに関する特記事項（複数回答）

立木調査において枯損、損傷・異常が多く発生した場合は、特に注意して要因を確認し、記入する。
ただし、被害情報について、既に終息している 5 年以上前の被害は、被害「なし」と記入すること。
被害種が不明な場合は、「その他」に「不明」と記入する。被害「なし」とした場合は、自然枯損とみなされる。

被害情報	病虫害	なし・あり〔松くい虫(マツ材線虫病) ・ ナラ枯損 ・ スギカミキリカラマツ先枯病 ・ カイガラムシ ・ その他（ ）〕
	気象害等	なし・あり〔風害 ・ 雪害 ・ 凍害 ・ 落雷 ・ 水害 ・ 火災 その他（ ）〕
動物情報	シカ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 体毛 ・ ブラウジングライン その他（ ）〕
	カモシカ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 体毛 ・ その他（ ）〕
	クマ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 体毛 ・ その他（ ）〕
	イノシシ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 体毛 ・ その他（ ）〕
	ノウサギ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 体毛 ・ その他（ ）〕
	サル	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ その他（ ）〕
	ノネズミ	なし・あり〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ その他（ ）〕
その他	その他 (被害以外も可)	動物種（ ） 〔剥皮 ・ 食痕 ・ 糞 ・ 足跡 ・ 目撃 ・ 鳴声 ・ その他（ ）〕

伐根調査表

格子点 I D	調査年月日

枚中	枚目
----	----

伐根有無	あり	※ 過去 5 年以内に新たに出現した（ナンバーテープまたはペイントがされていない）伐根のみを対象とする。
	なし	※ 伐根径：伐採面の高さが山側の地際 20cm 以下の場合は伐採面の直径、20cm より高い場合は山側の地際 20cm の位置の直径を計測する。直径巻尺を用いて、0.1cm 単位で計測する。計測した伐根は、伐採面にナンバーテープを付す。5 年後まで残るようしっかり付す。

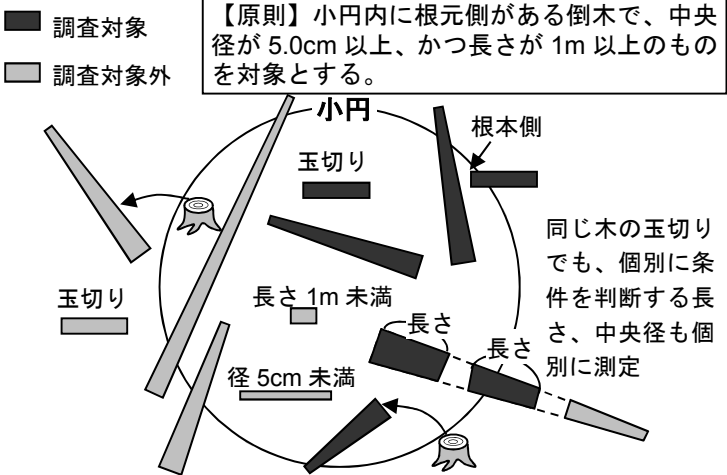
[illegible][illegible]

様式 5 倒 木 調 査 表

格子点 I D	プロット	
	特定調査プロットのみ（一般調査点、項目別調査点の項目 1～3 の格子点 ID 末尾が 0 または 5 及び、項目別調査点の項目 4（伐採跡地、自然災害）全て）	
倒木有無	あり なし	計測不可能倒木本数 本

通し 番号	小数第 1 位まで計測		原因		腐朽 度	備考
	中央径 cm	長さ m	人 為	自 然		
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

通し 番号	小数第 1 位まで計測		原因		腐朽 度	備考
	中央径 cm	長さ m	人 為	自 然		
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
46						
47						
48						
49						
50						



腐朽度	状態
木 本	0 枯死直後。枝にはまだ葉がついている。
	1 形成層のみ腐朽。大枝は残っている。
	2 辺材が腐朽。大枝は残っている。
	3 心材も腐朽。幹のみの状態。
	4 辺材が消失。心材のみが残っている。
	5 材の原形をとどめていない。
タ ケ	タケ 倒れており地表にあるがまだ硬さを保っている稈
	タケ 1 足で踏むと簡単に割れる程度に稈が腐っているもの
	タケ 2

土 壌 侵 食 及 び 下 層 植 生 調 査 表

格子点 I D	調査年月日	担当者

対象とする植生調査区を「様式 2-2 調査プロット情報(見取り図)」に記入する。

※ 全域が森林の植生調査区のみを対象とする。

※ 原則 N 区と S 区のペア、次に E 区と W 区のペア、次にいずれか 2 箇所。

※ 林床被覆率：草本層に加えて、根系、植物遺体、コケ類など何らかの植物由来の被覆が地表に占める面積割合。苔むした岩を含む。

※ 巨礫・岩率：大きさ 20cm 以上の礫あるいは岩が地表に占める面積割合（20cm の大きさは、地表に見えている面の短径で判定する。）

※ 土壌侵食痕：植生調査区内に出現するものに○を付す。重複選択可。

※ 植被率は植生調査区内にかかる投影面積率、出現種は植生調査区内に根元が出現した種名。
植被率に算定しても種名を記載しない場合もある。

※ 植生調査区外の植物種を植生調査区の植物種欄に記載しないように。その場合は「植生調査区外の特記種」欄に記載する。

※2つの面積割合の合計が100%を超えることはありえない
※100%未満かつ侵食痕なしはあり得る。

植生調査区		区	林分番号			区	林分番号		
土壌 侵食	地表状態	林床被覆 %		巨礫・岩率 %		林床被覆 %		巨礫・岩率 %	
	土壌 侵食痕	なし ・ 土柱 ・ リル ・ ガリー				なし ・ 土柱 ・ リル ・ ガリー			
下 層 植 生	植被率	低木層 %		草本層 %		低木層 %		草本層 %	
	優占種	低木層		草本層		低木層		草本層	
	植物種								
	〔低木層 草本層 着生植物〕								
	〔植生調査 区内に根 元がある〕								
植生調査区外 の特記種									

様式 7 資料調査表（面積最大の小班）

格子点 I D	資料調査年月日	担当者

- 1 調査プロットに関する情報（※前回調査の確認 入力プログラムから前回調査の値が出力される）

標 高	m	車道からの距離	m	集落からの距離	m
表 層 地 質	(出典:)		土 壌 型 分 類	(出典:)	

2 森林簿情報（地籍名以下は面積最大の小班のみについて記載）

林 小 班		面積最大	林班	小班	そ の 他	林班	小班
地 籍 名		都道府県			市 郡	町 村	
森 林 法 上 の 区 分		5 条森林 (地域森林計画対象)		7 条の 2 森林 (国有林森林計画対象)		計画対象外森林	
土地所有区分	林野庁 ・ 防衛省 ・ 環境省 ・ 財務省 ・ その他国有林 ()						
	都道府県 ・ 市町村 ・ その他公共団体 ・ 財産区 ・ 林業公社等 ・ 森林組合 森林農地整備センター ・ 会社 ・ 学校 ・ 社寺 ・ 入会林野 ・ 部落有 ・ 共有 その他団体 ・ 個人 ・ その他民有林 ・ 国立大学法人 ・ その他独立行政法人						
地域指定の種類		制限林	なし ・ あり〔名称 ()〕				
		制限林以外	なし ・ あり〔名称 ()〕				
伐採方法の指定		なし ・ あり〔 択伐(複層伐、漸伐を含む) ・ 禁伐 ()〕					
森林簿上の林種 (地 種)		人工林 ・ 天然林 ・ 伐採跡地 ・ 未立木地 ・ 竹林 その他 ()					
林 種 細 分		育成単層林 ・ 育成複層林 ・ 天然生林 ・ なし(林種が人工林、天然林以外)					
森林簿上の樹種 (10種まで)					森林簿上の林齢	年 ・ 林齢なし	
機能類型区分		水土保持林(国土保全 ・ 水源かん養)					
国 有 区 分	林 分	森と人との共生林(自然維持 ・ 森林空間利用) ・ 資源の循環利用林					
機能区分 民 有 林		水源かん養 ・ 山地災害防止 ・ 土壌保全 ・ 快適環境形成 ・ 保・レクリエーション ・ 文化 ・ 生物多様性保全 ・ 木材等生産 ・ 空白 ・ その他()					
施業履歴 (過去5年間)		皆伐 ・ 択伐(複層伐、漸伐を含む) ・ 間伐 除伐 ・ 下刈 ・ 枝打 ・ その他()					年 月
		皆伐 ・ 択伐(複層伐、漸伐を含む) ・ 間伐 除伐 ・ 下刈 ・ 枝打 ・ その他()					年 月

実 生 調 査 表

格子点 I D	調査年月日	担当者	コドラート（方位）	枚中 枚目

【項目別調査点：伐採跡地又は自然災害による攪乱跡地】の場合に実施する。
実生コドラート（1m×1m）は、植生調査を実施した植生調査区の中円側、中心から見て右角に
設置し、様式2-2見取り図に記入する。原則としてN、Sの2コドラートとなる。
DBH 1cm 未満の木本（ただし、当年生実生は除く）を対象として樹種、高さ（1cm 単位）、
実生/萌芽の別を調査する。当年生実生は節（葉柄跡）がないことで判別する。
コドラートの上から投影写真を撮影する。

[illegible]